

令和7年度

「学校(自己)評価報告書」



岩見沢市立東小学校

□ 学校の概要

学校名	岩見沢市立東小学校							
校長名	疋田博和				教職員数		35名	
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	合計
学級数	1	1	2	2	2	2	5	15
児童生徒数	20	28	39	39	46	44	14	230
住所	岩見沢市東町2条7丁目977番地5							
電話	0126-22-1018							
FAX	0126-23-4567							
URL	-							
e-mail	higashis@edu.hamanasu.con							

I 学校教育目標

【校訓】

生き生きと 心美しく たくましく

【教育目標】（H23年3月改訂） 【目指す子ども像】

- ◇進んで考える子どもの育成 ……考える子
- ◇心と体をきたえる子どもの育成 ……きたえる子
- ◇思いやりのある子どもの育成 ……思いやる子
- ◇最後までやりぬく子どもの育成 ……やりぬく子

II 中期及び単年度の具体的目標

I 学校経営の重点 ～本年度の視点、重点的に取り組むこと等～

(1) 岩見沢東小学校教育目標の具現化に努める。

- ①知・徳・体のバランスのとれた教育活動の推進
- ②コミュニティ・エリアの機能の充実を進め、地域と一体となる学校運営の推進
- ③経営方針を踏まえ、創意を生かし、共通理解と協働体制を重視した校務の推進
- ④子供と教職員が夢を持ち、生き生きと輝ける豊かな学校生活の推進

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりと改善に努める。

- ①学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラム・マネジメントの充実
- ②基礎・基本の確実な定着を図る授業の取組
- ③子供の学習意欲や理解度を高めるための指導方法や評価の工夫・改善
- ④教科の目標を達成するための単元全体を見通した計画的な授業づくり
- ⑤ICTの効果的な活用で授業の効率化や学習意欲の向上

(3) 豊かな心や健やかな体を育むため、体験活動、読書活動、体力づくり、いじめ未然防止に努める。

- ①多面的・多角的な思考を生かした道徳教育の推進
- ②いじめ防止基本方針に基づく取組の推進
- ③地域の環境や、人材を活かした体験活動の充実
- ④学校図書の実等、読書活動の取組の充実
- ⑤運動の生活化・習慣化を図り「他機関と連携した」体力の向上の充実

(4) 教師の専門性を高める研修と授業改善に直結する校内研修の充実に努める。

- ①本校的な課題に対応する資質や専門的指導力の向上を図る「ねらい定めた研修」の展開
- ②研究課題や研究体制を明確にし、系統的・計画的・継続的・機動的な研修活動の推進
- ③各種研修会、講習会への積極的参加と授業改善に生かす還流

(5) 人間関係づくり（ピア・サポート）を基盤とした学年経営の充実に努める。

- ①好ましい人間関係を育み、人間的なふれあいの中で、個性や能力を伸ばす学年・学級づくり
- ②何事にも意欲的に挑戦し、成就感・達成感による感動体験を味わえる学年・学級づくり

③保護者とともに歩む、寄り添いある教師の姿勢の徹底

(6) 家庭や地域との連携を強め、社会総がかりで子どもを育てる教育の充実に努める。

①保護者や地域住民の授業参加・協力を推進し、情報の共有化の推進と改善

②地域社会で子どもの成長を図るため、ともに活動し理解する場の確立と改善

③地域や家庭の教育力の向上を目指した PTA 活動やボランティア等の地域や関係機関との連携

(7) 一人一人の継続した成長を支えるため、幼・保・小・中・高の連携に努める。

①東光中学校区内学校の児童・生徒の交流を推進し、中1ギャップ解消を図る計画やスムーズな接続を図る交流事業の推進

②幼稚園・保育園との引継や連携を強化し、入学前の園児との交流の促進

③他校種間における教育内容や生徒指導の連携と情報交流を図り、指導改善を推進

(8) 安全で安心な学校づくりに努める。

①子供の安全を確保する交通安全指導や避難訓練・防犯訓練等の実施

②家庭・地域・関係機関との信頼関係のもと安心・安全な学校づくり

③教職員の服務規律の遵守を徹底

III 各種具体的な計画

【令和7年度の重点テーマ】

夢広げ 未来に煌く 東っ子

～みんなが幸せな学校をめざして～

児童の幸せ・教職員の幸せ・地域の幸せのために!

【重点目標】 自分を大切に! みんなを大切に!

【重点1…アンダー・アチーバー解消への挑戦】

□R6 ⇒ R7 でアンダーの子を軸に解消挑戦

○研修を中心軸にして更なるスタンダード授業への挑戦

○「授業時数特例」を活用した学力掌握と解消への挑戦

【重点2…セーフティネットの実働と充実】

□通級充実と学校全体のつながりですくい上げ

○特支・通級・通常学級の協働でセーフティネット充実

○親和的な学習集団を主軸とした学習環境の更なる充実【具体的な取組】

【重点3…生徒指導の予防と安定】

□教育活動のあらゆる場面で学びの土台を定礎

- 一人ひとりと向き合い・寄り添う生徒指導
- 「即時・機動」で組織・機動的な生徒指導

【学校を支える土台づくり】

- ICTを有効活用した働き方改革の更なる推進
- コアチームによるバツサリ、まずやってみる環境
- 教科担任・専科により 持ち時数 22時間以内

I 学校【かきおやをめざして】

1 子どもと創る授業づくり推進

- ①主体的・対話的で深い学びを通した確かな学力の定着
 - ・「子どもと創る授業」への発展
 - ・興味関心を引く生活に根ざした問題提示・・・学んだことを「どう使うか」へのつながり
 - ・子どもたちと創る課題やまとめ・・・主体的な学びへのアプローチ
 - ・学習過程と「振り返り」の完全実施・・・授業のタイムマネジメント
- ②より良い授業の追求・・・評価～改善のサイクルによる授業内容の充実
 - ・児童による授業評価の実施・・・定期的実施と活用
 - ・保護者、地域による授業評価の実施・・・定期的実施と活用
- ③全国学力学習状況調査・標準学力検査の採点、分析、授業改善への活用【即時反映】
 - ・全職員のかかわり・・・「求められる学力」の把握と授業改善への活用・・・研修部を中心とした取組
- ④日常的な振り返りと習熟のサイクル
 - ・ドリル等の活用・・・子ども自身が成長を実感できる継続的な取組
- ⑤チャレンジテストの活用
 - ・教職員の主体的・積極的なかかわりと授業への活用・・・解き直し・反復の実施
- ⑥ICT 機器の活用【校内研修の工夫・日常実践の交流】
 - ・提示の簡素化等による授業の効率化への有効活用・・・活用事例の蓄積と交流
 - ・児童個々の学習活動の転換・・・具体的方策の共有、実践と検証
 - ・リモート学習のノウハウの蓄積と共有・・・市事業・他校の実践・校内研修によるスキルアップ
- ⑦読書強化週間による読書活動の推進
 - ・市図書館、児童委員会等と連携した読書習慣化への取組・・・「家読」への発展
- ⑧必要な情報を主体的に収集・判断・編集・創造・表現・発信・伝達できる「情報活用能力」の育成
- ⑨多様化する情報システム及び情報化の「負」の部分に対応する指導と適切な整備・管理

2 特別支援教育の充実

- ①実態交流を推進し、合理的配慮も含め個々のニーズに応じた指導方法の充実
- ②校内支援委員会を活用し、全職員が協力・協働する教育支援体制の確立と研修の充実
- ③関係機関との密接な連携と地域・保護者への理解や啓発活動の推進

3 幼児期から小学校へのつなぐ学習

- ①スタートカリキュラムを活用しながら小 | プロブレム解消を図る計画やスムーズな接続を図る交流事業の推進

- ②幼稚園・保育園等との引継や連携を強化し、入学前の園児との交流の促進
- ③他校種間における教育内容や生徒指導の連携と情報交流を図り、指導改善を推進

4 小学校から中学校へのつながりを大切にした授業づくり

- ①「15の春に責任を持つ」の見直し(於:学校運営協議会)
- ②「東小授業改善のポイント」の共有と活用・・・定期的・日常的な検証の実施
- ③学習スキルの定着中学校区での確認事項の継続指導
- ④「家庭学習の手引き」の活用

5 外国語教育の推進

- ①授業交流を通じた実践的研究と改善による授業づくり
- ②ALT・外国語専科教諭との連携による指導の質的向上

6 安心して学び合える学習集団の醸成

- ①「受容」「傾聴」「共感」を土台にした児童理解と、職員間の情報共有
- ②いじめアンケート等と連動した計画的・定期的な場の設定※個人面談の実施
- ③Q-Uテストの実施と活用※客観的資料を元にした児童・集団の把握と分析
- ④ユニバーサル・デザインによる教育環境の充実
- ⑤ピア・サポートを土台にした支持的風土の醸成※研修の実施による内容・方法の共有
- ⑥子供の「自尊心」や「自己有用感」を高める生徒指導の充実
- ⑦児童会活動等と連携した啓発活動の推進
 - ・児童会・関係機関との連携による主体的・体験的活動の充実・・・子ども会議との連携
- ⑧生活指導委員会による組織的な対応
 - ・生徒指導グループを中心とした即時・組織的な対応・・・全職員での情報の共有
- ⑨保護者・関係機関と連携した迅速な対応
 - ・「大きく広げ、小さくおさめる」対応の徹底・・・「さ・し・す・せ・そ」の意識共有
- ⑩ヤングケアラーや不登校等への迅速な対応
 - ・他機関との連携をとりながら、日常的な「備え」の意識・・・小さな芽の把握、保護者との情報交流、関係機関との早期連携

7 体力の維持増進

- ①新体力テストの全校実施と分析【6月実施⇒分析⇒改善方策の即時実施】
 - ・個々の変化、学校全体の課題把握と改善・・・個人的課題と全体的課題の整理
 - ・分析結果と改善方策の周知・・・家庭地域と連携した取組への発展
- ②継続的な体力測定の実施による検証と改善【R6年度分析結果をもとに即時実施】
 - ・継続的な体力向上の取組・・・恒常的な測定機会や場の設定と活用
- ③体力強化週間、「ボディ・パワー・プラス」との連携、体育集会等の活用と充実
 - ・担当係、児童会等との連携による活動の充実・・・学校全体の課題にリンクさせた取組
- ④どさん子元気アップチャレンジの活用
 - ・教職員の主体的、積極的なかわりと授業への活用・・・学校課題解決の視点で活用

⑤課題を意識した体力づくり運動の継続

・新体力テスト結果を活用した体力づくりへの継続的な取組・・・指導計画への位置づけ

⑥適正な目標設定と評価による意欲づけ

・「課題」と「個別の目標」とのかかわりを明確にした授業の構成

8 道徳教育の推進

①他校の研究会への積極的参加と還元、実践への活用

②授業交流を軸にした実践研究による授業改善

③道徳的判断力・心情・態度・規範意識を高める授業の充実

④「考え、議論する道徳」に視点をおいた授業づくりと改善

9 キャリア教育の推進

①地域人材を活用した外部講師の活用

②各教科との関連を図った目標・題材の精選・・・実践・検証・改善

③地域人材・地域の教育力を生かしたキャリア教育の推進・・・人材バンク・企業等の活用

10 安全教育の充実

①感染症に対する正しい知識の共有と防止行動の実践指導

②科学的根拠に基づいた正しい判断と、差別・偏見を持たない意識の指導

③薬物乱用防止教育、がん教育、SNS 等教育の実施

④家庭への啓発および外部人材の活用・・・見通しを持った計画

⑤危機管理マニュアルの活用と緊急時における安全確保

⑥内容の確認と更新の実施・・・定期的な検証のサイクルと全体研修による共通理解

⑦自他の生命の尊さを自覚し、安全な行動の習慣化を図る指導の徹底

⑧全教育活動を通じて健康に留意した食育の指導や給食指導の充実などの食育の推進

II 家庭【家庭という学校づくり】

①家庭と連携した基本的な生活習慣、学習習慣の確立

②地域の教育資源や地域人材の積極的活用

③保護者地域の声を反映させた改善の取組および学校評価の有効活用

III 地域【コミュニティ・エリアの充実】

①地の利を生かした体験による活動の充実

②「ふるさと教育」の充実・・・内容・方法等の充実に向けた検討

③コミュニティ・エリアの実現・・・連携と相互作用を図った活動推進を視野に入れた計画

IV【働き方改革の推進】

①勤務実態と意識の把握による改善の方策実施

②コア・チームの組織と活用

③組織的業務推進による効率化と教育活動および業務の精選

- ④ICT を活用した授業改善や教材の活用
- ⑤校務支援システムを活用した業務の効率化と軽減

V 学校評価

(1) 教育課程

- ①学習指導要領の趣旨を踏まえ、適切な教育課程を編成・実施していく中、「主体的・対話的で深い学び」を実現する東小の授業スタイルを組織的に実現し、「子どもと創る授業」づくりを推進します。

(2) 学習指導

- ①ICT を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。

(3) 授業改善の取り組み

- ①児童の学習状況を適切に把握し、授業改善を進めながら、どの児童にも「わかる・できる」を保障した授業を展開します。

(4) 学年・学級経営

- ①自尊感情の育成を柱に、子どもや保護者にとって満足度の高い学年経営の充実に努めるため、各学年の経営の重点を適切・具体的に位置付け展開できるよう経営の評価・進行管理を行います。

(5) 健康・安全指導

- ①生命を尊び、自らの心身を鍛える指導の充実に努め、体力や健康の実態を適切に把握し、改善方策を明確にするとともに、児童の危険予測・回避能力を向上させる指導を展開します。

(6) 道徳教育

- ①教職員が組織的に道徳科の授業づくりを工夫し、児童に道徳的な価値を実践することができる内面的資質を養います。

(7) 外国語活動

- ①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めながら、外国語専科教諭およびALTとの連携を円滑に行います。

(8) 特別支援教育

- ①個別の指導計画等を活用しながら、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行い、特別支援学級在籍、通常学級在籍の「困り感」のある児童への組織的・継続的な指導を進めます。

(9) 生徒指導

- ①「東小いじめ基本方針」に基づく取り組みを着実に実行するとともに、「いじめ・不登校対策委員会」を機能させ、未然防止および初期対応と組織的な取り組みを一層充実させます。

(10) 危機管理

①校舎内外の安全確保を図り、校舎内外の安全点検日を設定するなどして日常的な安全管理を徹底します。

(11) 家庭・地域社会との連携

①授業参観、定期的な学校だよりの発行、各種通信の充実に努め、学校の教育活動を積極的に発信する。

(12) 学校事務

①教育計画に対応した予算編成と執行するため、教職員や児童のニーズを適切に把握し、予算にかかわる十分な検討を行います。

(13) 環境構成

①教職員相互のコミュニケーションを大切にし、職場のセーフティネットとしての機能を高めます。

(14) コミュニティ・エリア

①東光中校区学校運営協議会を有効活用し、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進します。

(15) 今日の課題

①キャリア教育や環境教育の充実に努めるため、地域の教育資源や人材を活用した教育活動の推進や、環境保全活動に取り組みます。

②教職員の役割分担や業務の適正化、校務の情報化を進めながら必要な環境を整備し働き方改革を目指します。

V 学校評価

(1) 教育課程

①学習指導要領の趣旨を踏まえ、適切な教育課程を編成・実施していく中、「主体的・対話的で深い学び」を実現する東小の授業スタイルを組織的に実現し、「子どもと創る授業」づくりを推進します。

(2) 学習指導

①ICTを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努めます。

(3) 授業改善の取り組み

①児童の学習状況を適切に把握し、授業改善を進めながら、どの児童にも「わかる・できる」を保障した授業を展開します。

(4) 学年・学級経営

①自尊感情の育成を柱に、子どもや保護者にとって満足度の高い学年経営の充実に努めるため、各学年の経営の重点を適切・具体的に位置付け展開できるよう経営の評価・進行管理を行います。

(5) 健康・安全指導

①生命を尊び、自らの心身を鍛える指導の充実に努め、体力や健康の実態を適切に把握し、改善方策を明確にするとともに、児童の危険予測・回避能力を向上させる指導を展開します。

(6) 道徳教育

①教職員が組織的に道徳科の授業づくりを工夫し、児童に道徳的な価値を実践することができる内面的資質を養います。

(7) 外国語活動

①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めながら、外国語専科教諭およびALTとの連携を円滑に行います。

(8) 特別支援教育

①個別の指導計画等を活用しながら、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行い、特別支援学級在籍、通常学級在籍の「困り感」のある児童への組織的・継続的な指導を進めます。

(9) 生徒指導

①「東小いじめ基本方針」に基づく取り組みを着実に実行するとともに、「いじめ・不登校対策委員会」を機能させ、未然防止および初期対応と組織的な取り組みを一層充実させます。

(10) 危機管理

①校舎内外の安全確保を図り、校舎内外の安全点検日を設定するなどして日常的な安全管理を徹底します。

(11) 家庭・地域社会との連携

①授業参観、定期的な学校だよりの発行、各種通信の充実に努め、学校の教育活動を積極的に発信する。

(12) 学校事務

①教育計画に対応した予算編成と執行するため、教職員や児童のニーズを適切に把握し、予算にかかわる十分な検討を行います。

(13) 環境構成

①教職員相互のコミュニケーションを大切にし、職場のセーフティネットとしての機能を高めます。

(14) コミュニティ・エリア

①東光中校区学校運営協議会を有効活用し、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進します。

(15) 今日の課題

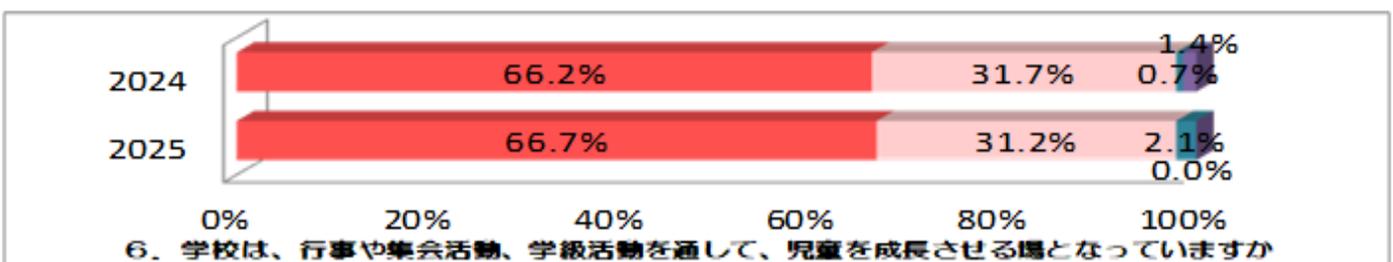
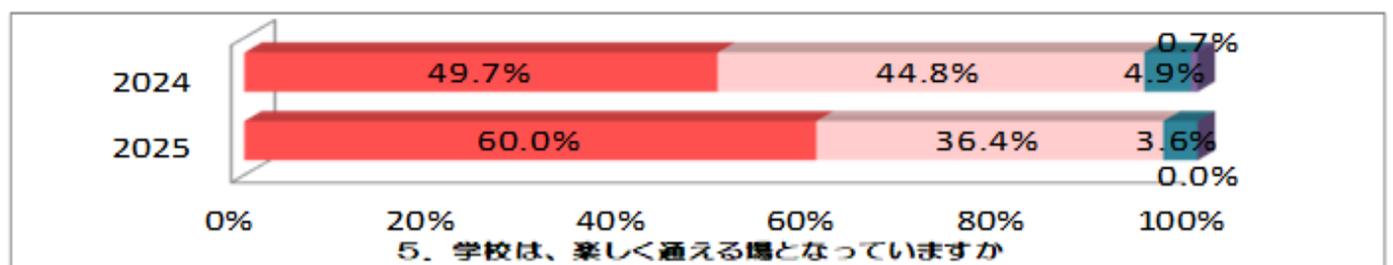
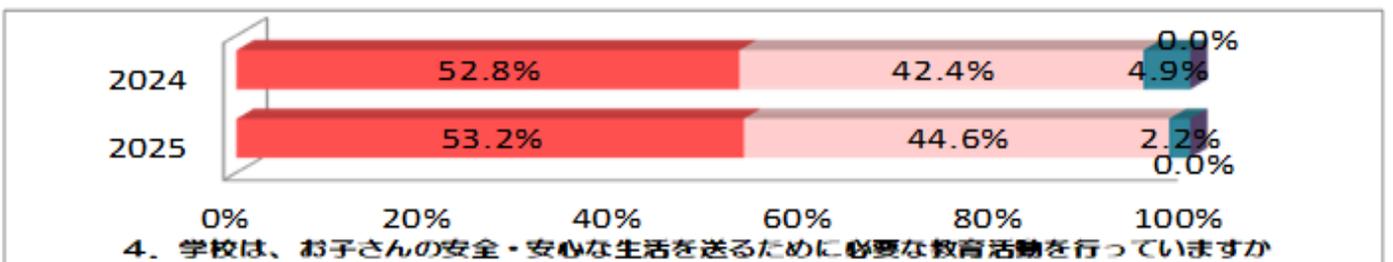
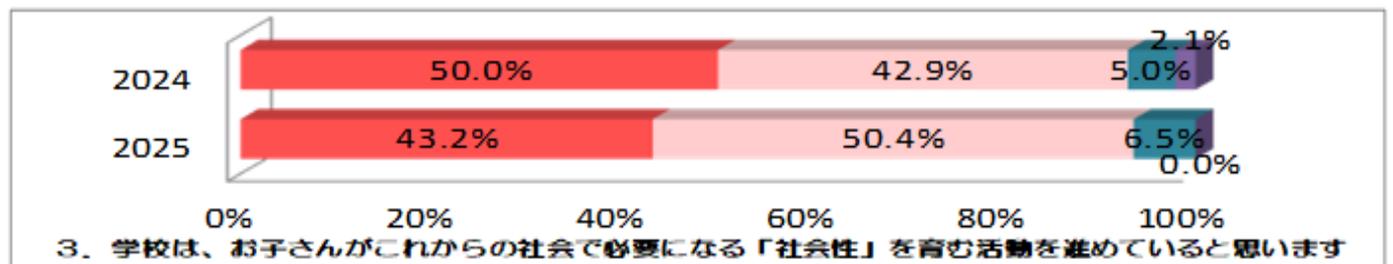
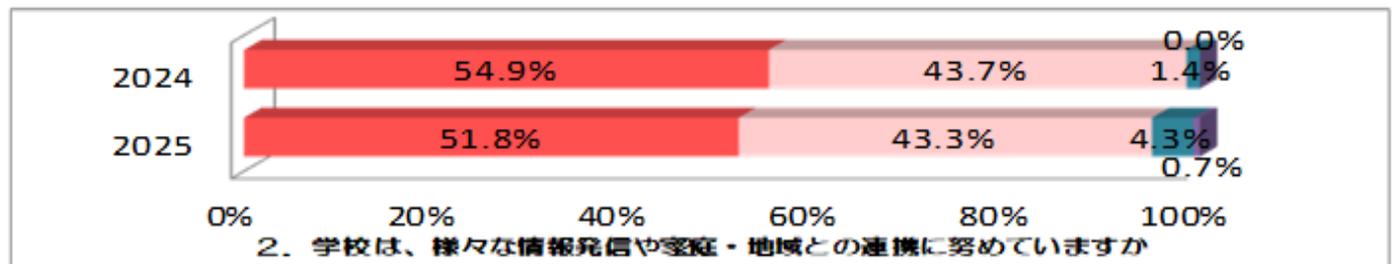
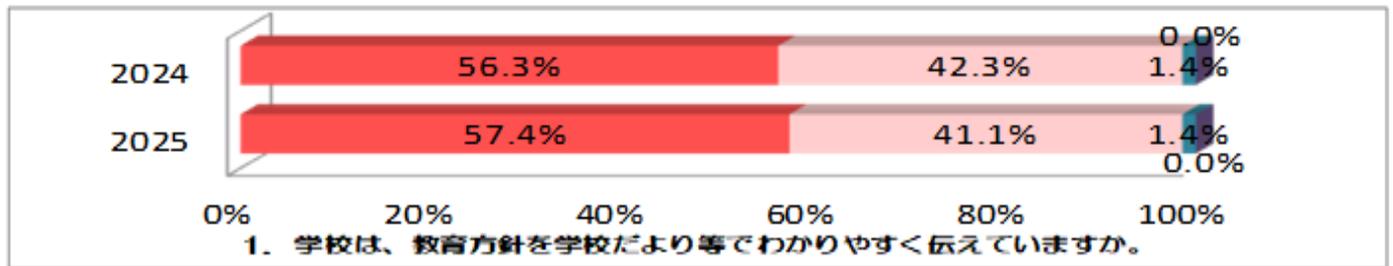
①キャリア教育や環境教育の充実に努めるため、地域の教育資源や人材を活用した教育活動の推進や、環境保全活動に取り組みます。

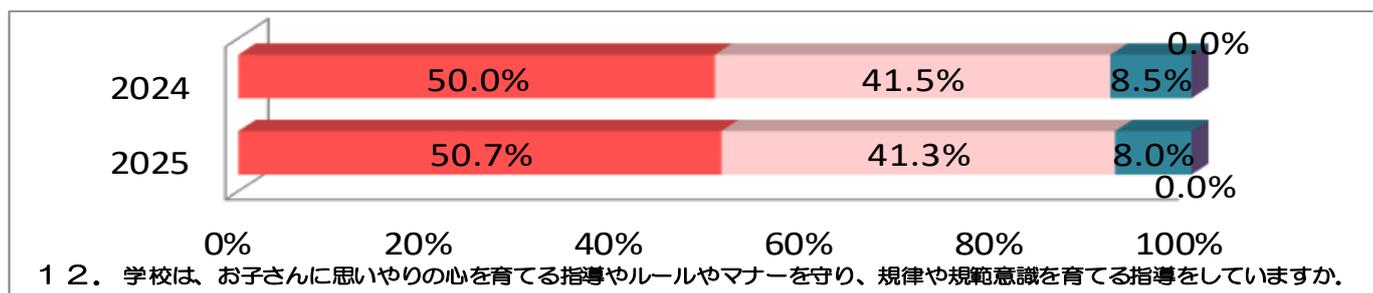
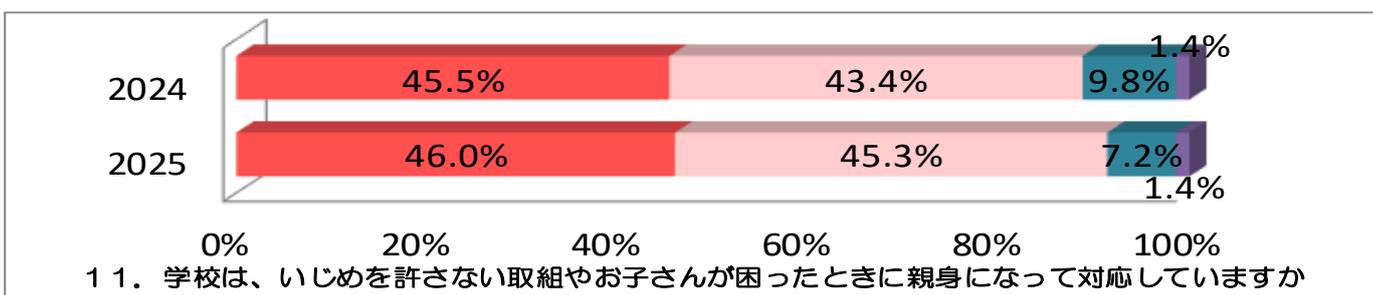
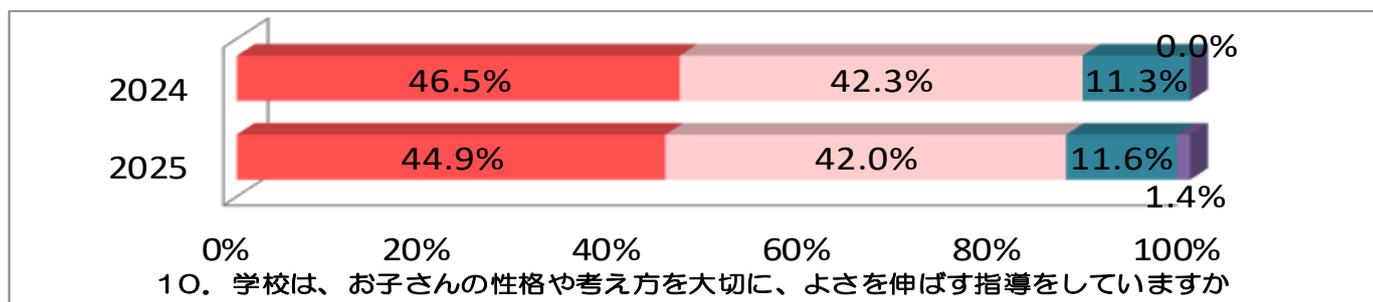
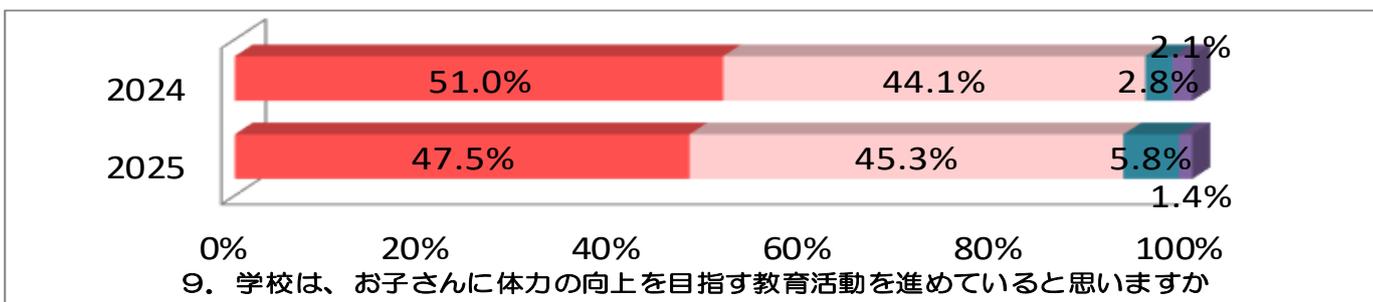
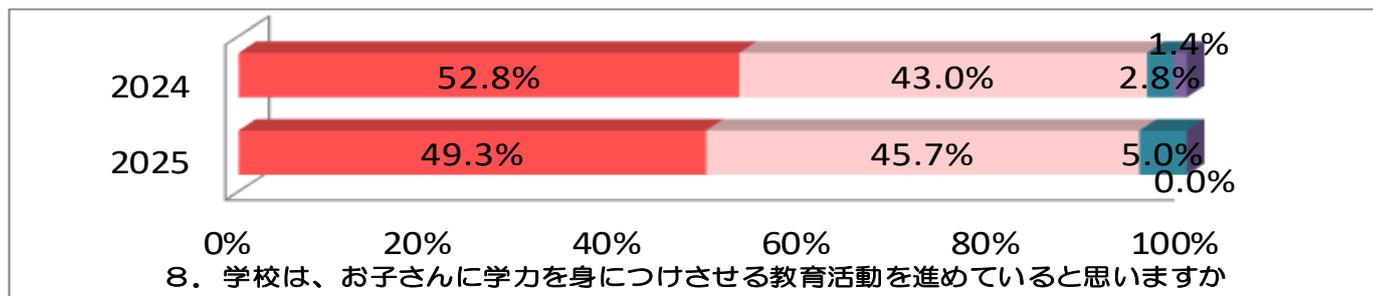
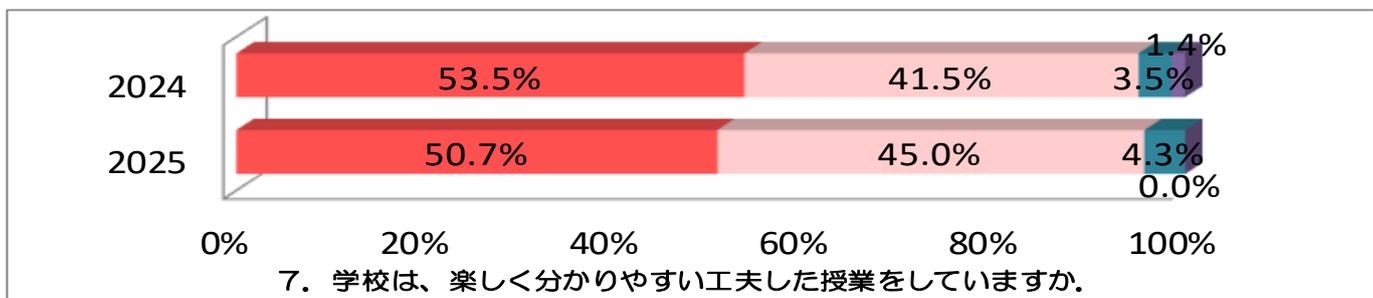
②教職員の役割分担や業務の適正化、校務の情報化を進めながら必要な環境を整備し働き方改革を目指します。

IV 各種評価結果と改善策

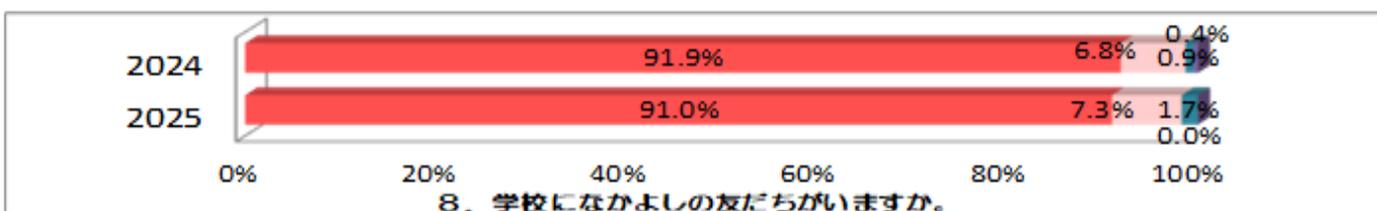
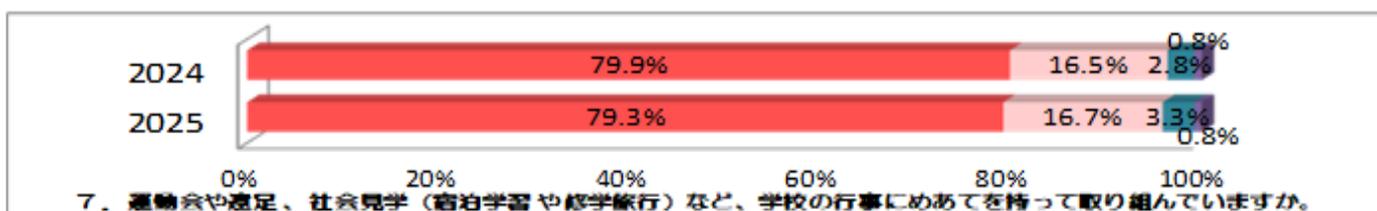
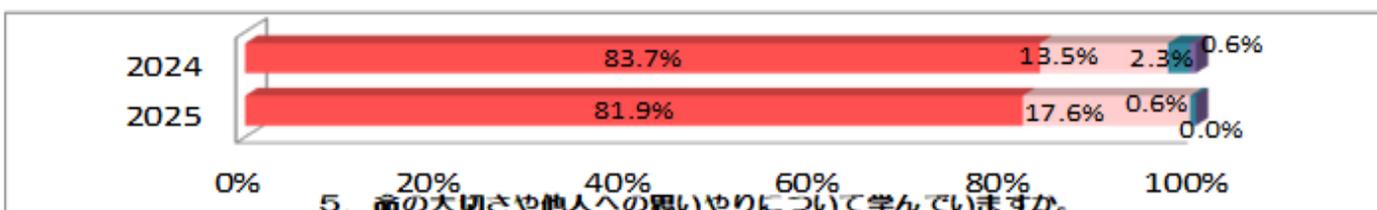
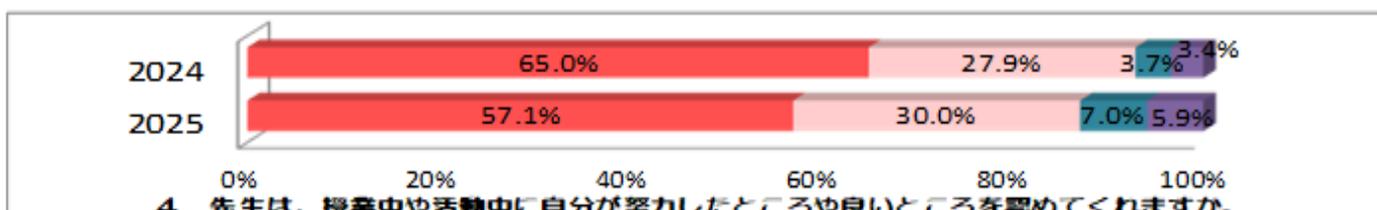
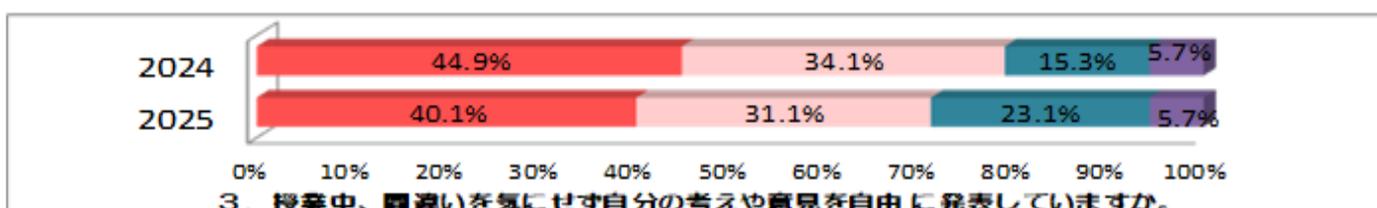
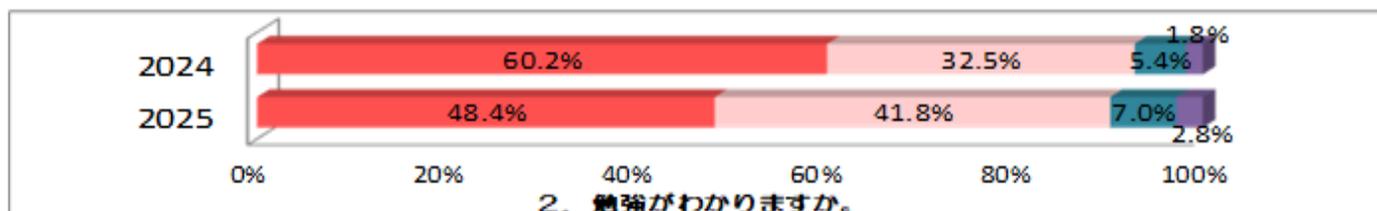
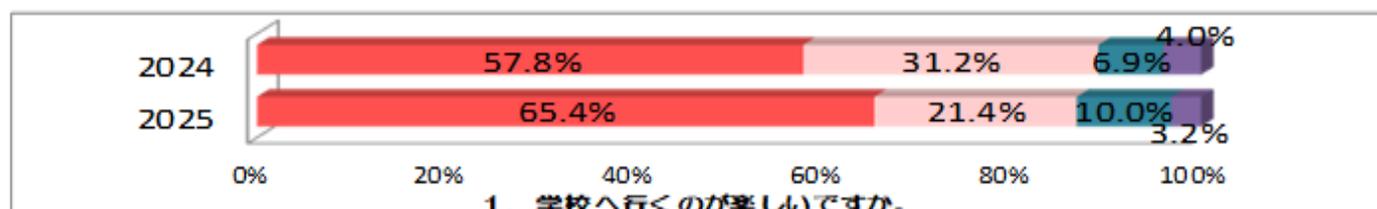
I. 保護者・児童アンケート

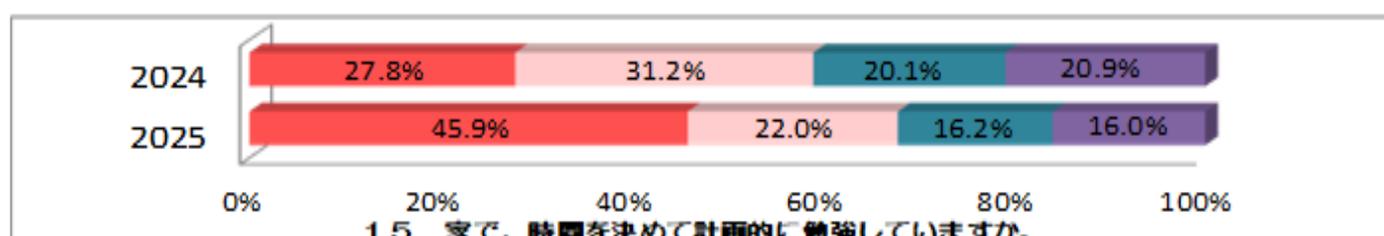
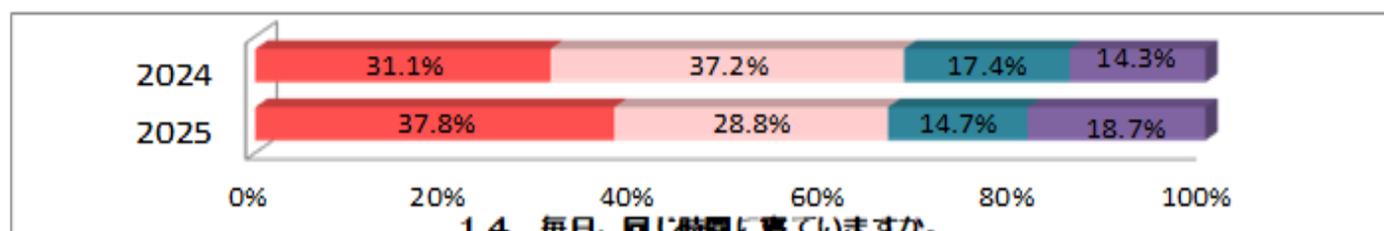
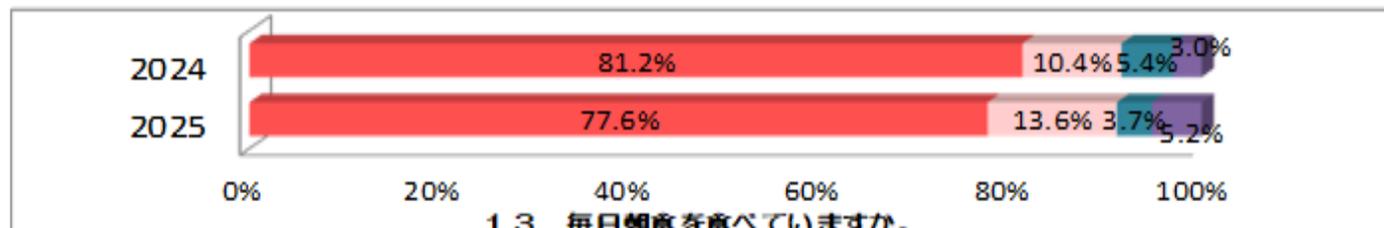
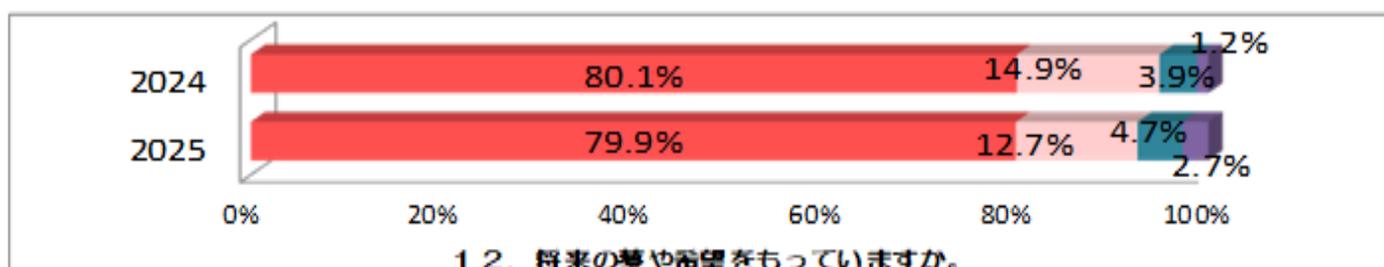
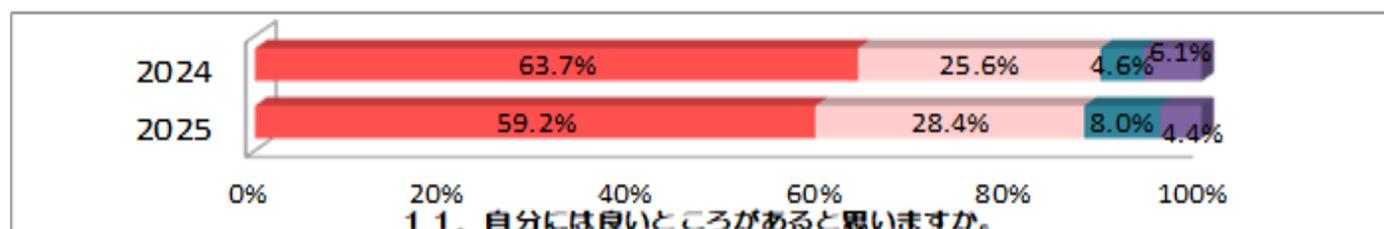
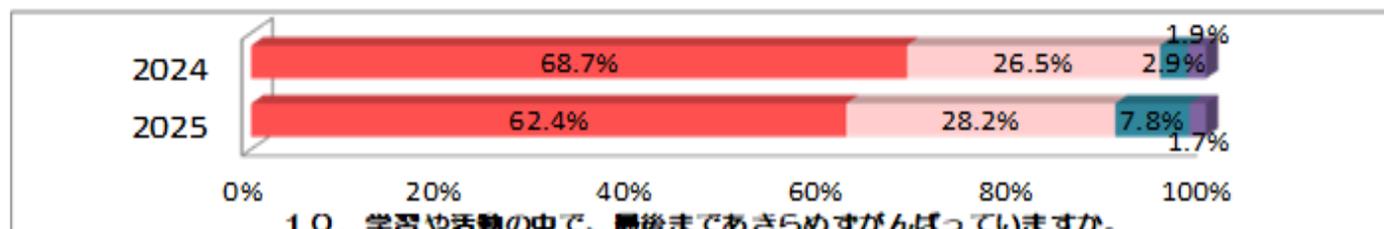
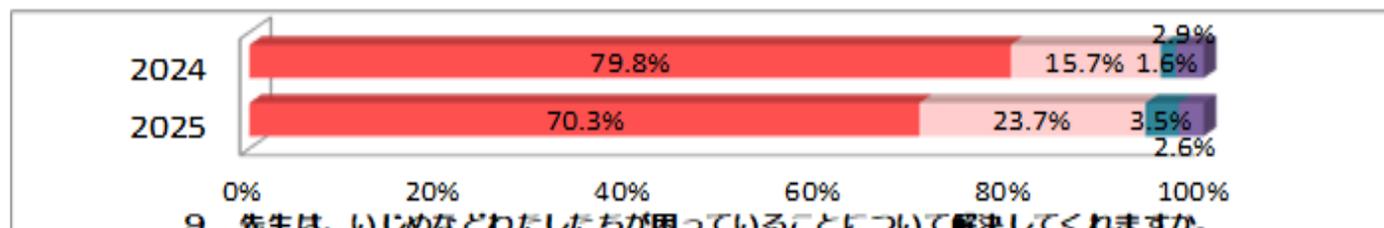
(1) 保護者アンケート結果





(2) 児童アンケート結果

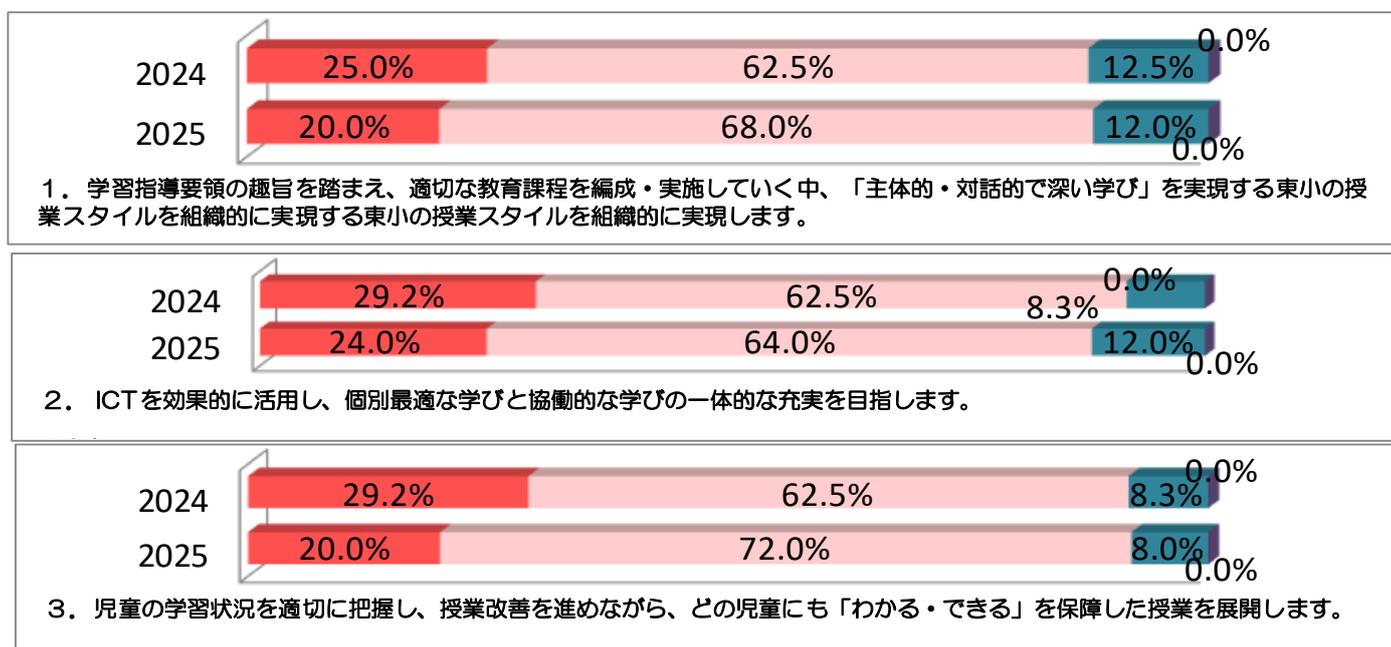


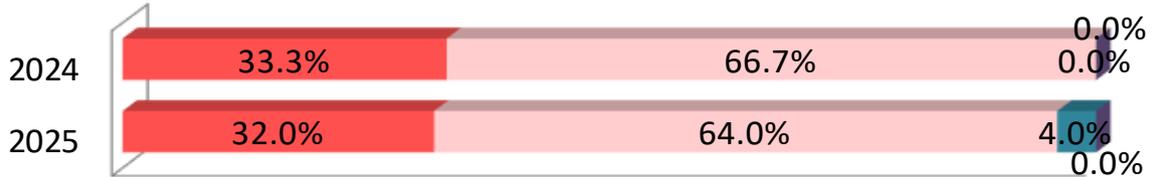


(3) 保護者アンケート・児童アンケート分析・考察

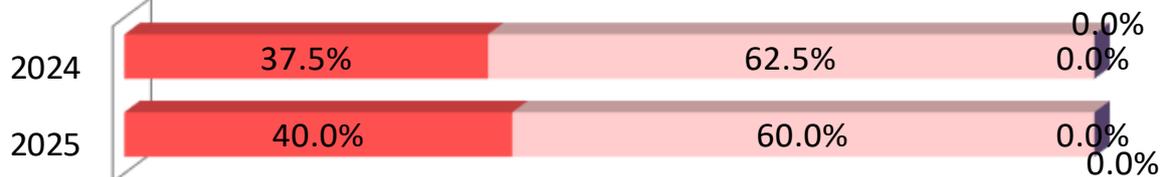
保護者へのアンケートにおいて、「4. 学校はお子さんの安全・安心な生活を送るために必要な教育活動を行っていますか」、「5. 学校は、楽しく通える場となっていますか」、「11. 学校は、いじめを許さない取組やお子さんの困ったときに親身になって対応していますか」の項目において、昨年度より「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合が増えています。児童アンケートでは「5. 命の大切さや他人への思いやりについて学んでいますか」は、「あてはまる」の割合は減っているものの「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた割合は昨年度より増えています。一方、「1. 学校へ行くのが楽しいですか」と「9. 先生は、いじめなどわたしたちが困っていることについて解決してくれますか」の項目においては、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせた割合が昨年度より減っています。今後も、子供たちの気持ちに寄り添い、より安心して学び、いじめ等が無い楽しい生活の場になるよう、保護者の皆さんと教職員が連携して教育活動を進めていきたいと考えます。10. 学校は、お子さんの性格や考え方を大切に、よさを伸ばす指導をしていますか」の項目において、昨年度より「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合が減っています。児童アンケートの「4. 先生は、授業中や活動中に自分が努力したところや良いところを認めてくれますか」の項目も「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合が減っています。今後も、担任が普段の子供たちの様子を細かく観察したり、教職員が密に連携して子供たちの頑張りなどを共有したりすることで、児童の行動を認める機会がより増えるよう取組んでいく必要があると考えます。また、「2. 学校は、様々な情報発信や家庭・地域との連携に努めていますか」でも、昨年度より「あてはまる」と「ややあてはまる」の割合が減っています。保護者アンケートの自由記述でも、プリントの配布や、テトルでの送信について要望がありました。今後ご家庭にとって情報を受け取りやすい方法について、検討していきたいと考えます。

2. 教職員アンケート

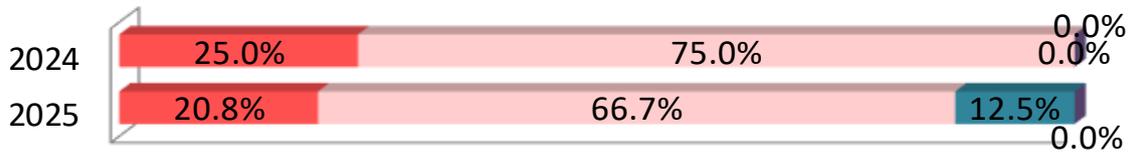




4. 自尊感情の育成を柱に、子どもや保護者にとって満足度の高い学年経営の充実に努めるため、各学年の経営の重点を適切・具体的に位置付け展開できるように経営の評価・進行管理を行います。



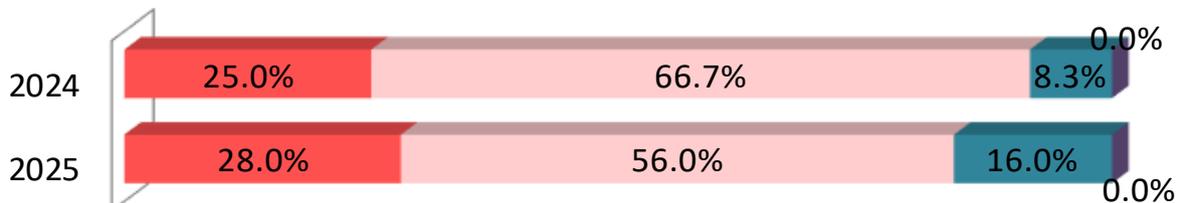
5. 生命を尊び、自らの心身を鍛える指導の充実に努め、体力や健康の実態を適切に把握し、改善方策を明確にするとともに、児童の危険予測・回避能力を向上させる指導を展開します。



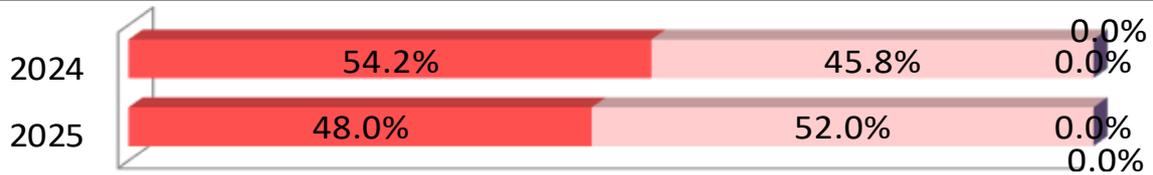
6. 教職員が組織的に道徳科の授業づくりを工夫し、児童に道徳的な価値を実践することができる内面的資質を養います。



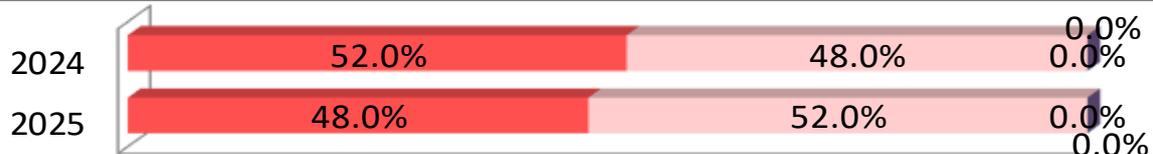
7. 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努めながら、外国語専科教諭およびALTとの連携を円滑に行います。



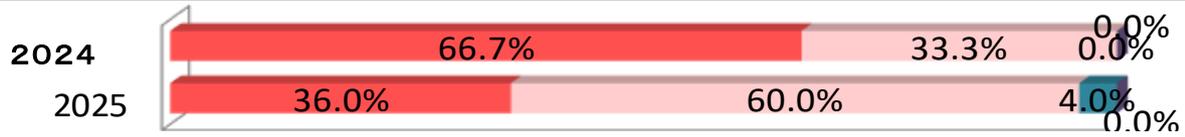
8. 個別の指導計画等を活用しながら、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行い、特別支援学級在籍、通常学級在籍の「困り感」のある児童への組織的・継続的な指導を進めます。



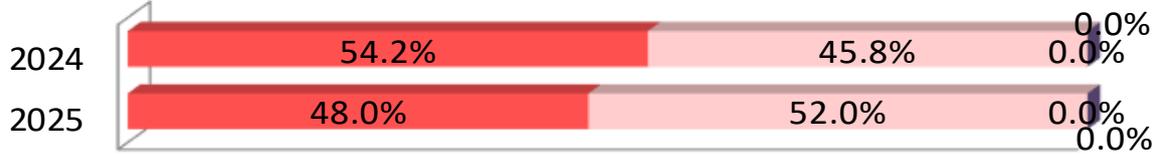
9. 「東小いじめ基本方針」に基づく取り組みを着実に実行するとともに、「いじめ・不登校対策委員会」を機能させ、未然防止および初期対応と組織的な取り組みを一層充実させます。



10. 校舎内外の安全確保を図るため、校舎内外の安全点検日を設定するなどして日常的な安全管理を徹底します



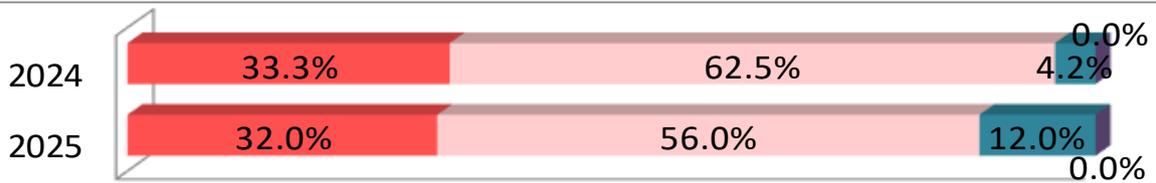
1 1. 授業参観、定期的な学校だよりの発行、各種通信の充実に努め、学校の教育活動を積極的に発信する。。



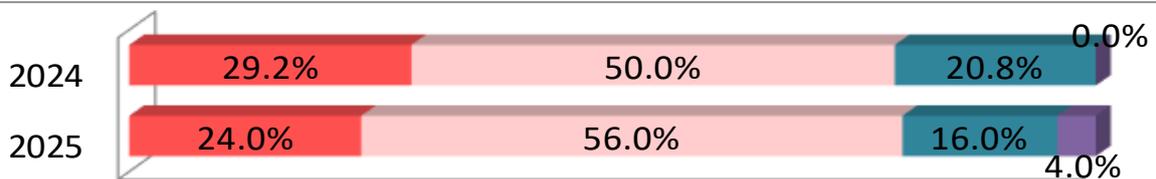
1 2. 教育計画に対応した予算編成と執行するため、教職員や児童のニーズを適切に把握し、予算にかかわる十分な検討を行います。



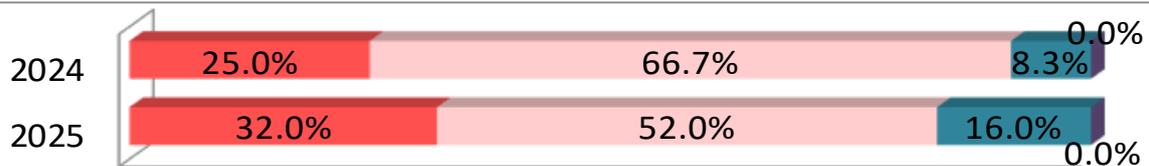
1 3. 教職員相互のコミュニケーションを大切にし、職場のセーフティネットとしての機能を高めます。



1 4. 東光中校区学校運営協議会を有効活用し、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進します。



1 5. キャリア教育や環境教育の充実に努めるため、地域の教育資源や人材を活用した教育活動の推進や、環境保全活動に取り組めます。



1 6. 教職員の役割分担や業務の適正化、校務の情報化を進めながら必要な環境を整備し働き方改革を目指します。

V 学校関係者評価を受けての改善策等

I. 学校運営協議会委員からのご意見

(1) 対象校の自己評価の内容について

○学校としての取組は、何回かの学校運営協議会にて聞いており、その都度、成果と課題の説明を受けています。また今回の学校評価の結果をあわせると、学校はでき得ることをしっかり進めていると評価しております。さらに、結果として見えた数値に、一喜一憂するのではなく、総体的に捉えて、学校として進むべき方向の根拠にして次年度に向けた取組を考えていただければと思います。

○保護者アンケートの結果から、安心安全で楽しい学校生活のための教育活動に関して、保護者と学校との信頼関係は、昨年度に比べて深まっていることがうかがえました。安心して学校へ送り出せるという保護者からの信頼は、お子さんの学習態度の向上、行事や学級活動で協力し合ったり、主体的に活動する成長した姿、学校のルールを守る姿などからも育まれていると思います。

○児童アンケートの結果から、児童と学校、先生との信頼関係にも通じる項目について。学校が改善方法に示されていますように、教職員が密に連携しながら、子どもたちの頑張りや良いところを共有し、考えや行動を認める機会が増えるよう取り組み、また保護者と連携をして、より楽しい学校生活になるよう心がけてほしいと思います。

○アンケート結果から、安全・安心への取組やいじめ防止について、保護者の評価が高まっていることはとても心強く感じました。学校の継続した取組の成果が表れていると思います。一方で、「学校が楽しい」「困ったときに先生が解決してくれる」と感じている児童がやや減っている点は気になります。今後も子ども一人一人の声に丁寧に耳を傾け、安心して相談できる環境づくりを進めてほしいと思います。また、子どものよさや努力を認める指導や、情報発信の方法について改善を図ろうとする姿勢は大切だと感じました。家庭と学校が連携しながら、子どもたちがより楽しく安心して過ごせる学校になることを期待しています。

○改善の取り組みがわかりやすく記されています。これらの評価を受け改善すべき点を日々の学校運営に取り込み、維持すべき点を守りながら学校づくりを行なって頂きたい。

(2) 教育活動及び、学校運営の改善に関する意見について

○学校が楽しい、笑顔がみられる環境を望みます。ただ、そのように見とれない子がいたとしても、本人が自分の良さに気付いたり、自分を好きになったりできるきっかけが学校生活の中で与えられる環境を望みます。

○学力の向上、「できた!」を目指し、校内授業交流などの研修で研鑽に努められている先生方には、チーム一丸となって、改善策に向き合われていることを心強く感じています。様々な活動にも当てはまりますが、子どもたちにとって、学習意欲に繋がる活発な学びの場であり続けてほしいと望んでおります。

○今後も、子どもたちが安心して楽しく通える学校づくりを大切にしていきたいと思っています。特に、一人一人の気持ちに寄り添い、困ったときにすぐ相談できる環境づくりをさらに充実させていただくことを期待していま

す。また、子どもたちのよさや努力を積極的に認め、自己肯定感を高める指導を継続してほしいと考えます。
子どもたちの健やかな成長のために、今後も家庭と学校が協力し合いながら教育活動が進められることを願っています。

○多くの項目で高い数値となり安心、安全な学校づくりに努めて来られた管理職をはじめとする先生方の努力の結果だと思えます。

(3) その他

○保護者、学校、地域のコミュニケーションが大切である今「子どものため」という思いを共有出来る様全てを巻き込んだ活動が出来たらと思います。

《 学校運営協議会委員からの意見を受けて》

アンケート結果を総合的に分析し、個々の数値の上下に一喜一憂するのではなく、経年変化や回答の背景にある思いを丁寧に読み取りながら、成果と課題を明確にし、次年度の教育活動および学校運営の改善に着実に生かしていく。その際、学校運営協議会での意見も踏まえ、客観的な視点を取り入れながら、重点目標を焦点化し、具体的な取組へと落とし込む。特に、「学校が楽しい」「困ったときに先生が解決してくれる」と実感できる児童を増やすことを重要な課題と捉え、児童一人一人の声に丁寧に耳を傾ける姿勢を大切にする。日常的な声かけや面談の充実、相談しやすい雰囲気づくりを進めるとともに、教職員間で情報を共有し、組織的に支援できる体制をさらに強化する。小さな変化やサインを見逃さず、早期対応に努めることで、安心して過ごせる環境を整える。また、子どもたちのよさや努力、成長の過程を積極的に認め、価値付ける指導を充実させる。教職員が互いに連携し、児童の頑張りを共有することで、子ども自身が自分の強みや可能性に気づき、自己肯定感を高められるよう支援する。学級活動や学校行事においても、主体的に考え行動できる場面を意図的に設定し、達成感や充実感を味わえる経験を積み重ねていく。学習面では、校内研修や授業交流を継続的に実施し、授業改善に取り組む。分かる・できる喜びを実感できる授業づくりを進めるとともに、個に応じた指導や支援を工夫し、基礎・基本の定着と活用力の向上を図る。「できた」という成功体験を積み重ねることが学習意欲の向上につながるよう、評価の在り方についても見直しを行う。さらに、保護者・地域との連携を一層深め、学校の取組や子どもたちの様子を積極的に発信し、相互理解を図る。「子どものため」という共通の思いを基盤に、家庭・地域と協働しながら、安心・安全で温かく、誰もが大切にされる学校づくりを推進していく。